（別紙4）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3372300586		
法人名	社会福祉法人閑谷福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームもみじの里		
所在地	岡山県和気郡和気町日笠下631		
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372300586&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ライフサポート
所在地	岡山県岡山市南方2丁目13番地1号
訪問調査日	平成22年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

○先天性又は後天性の障害に関わらず利用者を生活者と受けとめ、共に生きることを目指している事業所です。
○本人または家族に、ここを選んで良かったと思ってもらえる事業所づくりを目指している。その為に、一人一人の性格や生活リズムを尊重し、利用者が安心してゆったりとした時間の中で、生活できることを目標に支援している。
○健康管理には医師・看護師と連携を取り、安心して過ごしてもらえるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

母体法人はこの地で障害者福祉の分野で貢献してきており、地域の信頼も厚い。ホームは母体法人の全面的なサポートを背景に、すぐ近くにある同一母体法人のグループホームと連携を図りながら、障害者をも含めた認知症介護を実践している。ここで安心出来る生活を目指した良心的な運営を行い、利用者の気持ち最優先・出来る限り最大限の支援に取り組んでいる。利用者・職員マンツーマンで温泉・カラオケ・買い物等に出掛け「寂しい、帰りたい」と言えば、本人の帰りたい所を捜してドライブ等、個別支援が良く出来ている。利用者一人ひとりを大切に、業務を越えて職員も一人の人間として共に楽しもうとしている。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に沿った年間の目標を決めて取り組んでいる。	母体法人全体の共通理念をベースに、事業所独自の目標を掲げ実践に努めている。今年の目標は“より個別な支援“各利用者の介護計画を基本にその人にとって必要な支援は何かを考えて取り組もうと話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方が野菜を持って来て頂いた際や、入居者の知人の面会時、ウォーキング等行っている際等、職員又は利用者から挨拶、声をかけを行い、少しずつ地域の方との関わりをもてるようにしている。	地元出身の職員が多く、管理者もホーム周辺に居住しているので、地域の人は隣人であり、地域交流の基盤が出来ている。地区敬老会に招待され、地域のバラ園で地元の人と交わり、法人全体の夏祭りには地域の人が集い、ボランティアが手伝ってくれる。	今後は地域のグループホーム間の交流を図りたいと聞いた。利用者も職員も互いに行き来して親睦を深め、良い刺激になりそうだ。大きな波及効果が期待出来るので、是非実現して欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を抱える家族からの相談があった場合は、電話連絡、訪問を問わず可能な限り話が出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に運営推進会議を開催している。家族もほぼ毎回参加している。町の職員や民生委員の参加も得られている。	市町村介護保険課担当者･地域包括支援センター職員･民生委員･利用者･家族等が出席して、定期的に運営推進会議を開いている。広報紙発行の提案があり、家族によるホーム周辺環境整備協力が決定する等、開催効果も上がっている。	運営推進会議は定着しているが、今後は新たなメンバー開拓を検討してみては如何だろう。ゲストでも良いから、現在の出席者から紹介を得る等して、より多くの人に関わって貰えると心強い。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町職員並びに地域包括支援センター職員と入居者の状況又は入居状況等の連携を密にとっている。	何かあれば市町村担当者に相談して、指導･助言を受けている。和気町は運営推進会議にも積極的に参加し、ホームの実情を把握して連携を図り、地域住民の為により良いサービスを提供する体制が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所玄関が県道に面しており、個別の利用者の行動特性により現在も施錠しているが、事業所又は法人の委員会活動、事業所の会議にて周知する様努めている。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、母体法人全体の研修に加えて、ホームでも職員研修を実施して、具体的に職員に伝え、これだけはしてはいけない行為だと徹底し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に事業所又は法人の委員会活動、事業所の会議にて周知する様努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の状況やご家族の希望を確認し、権利擁護に関する運営を実施するNPO法人等と連携し、必要に応じて対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	入所前の事前相談等、重要事項説明並びに契約内容をご家族への説明と同意を頂くと共に、それ以外の相談又は疑問点については随時対応している。		
10	⑹	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年数回、事業所独自の通信を発行し、実施内容について連絡している。また、面会時等を利用してご家族の意見･要望を確認するよう努めている。	ホームのたよりを送付して様子を伝え、何かあれば電話連絡し、面会時にも話し合っている。年2回家族が集まる場を設け、親睦を図りながら意見交換している。運営推進会議にも毎回家族の出席がある。	
11	⑺	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の安心した生活を基準とした上で、事業所内に委員会を設け、利用者･職員の意見を聞くよう努めている。	何かあればその都度全体会議を開くが、2ヶ月に1回定期的に職員会議を実施し、日常的にミニミーティングを行い話し合っている。職員間で“つぶやきノート“を作り、思いや気付きを相談し、認識を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	年度当初に自己目標を立てるようにすると共に、年度末に自己評価を実施し、各自が振り返りと就業意欲の向上に努めて.いる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、事業所又は法人内外の研修へ参加ができる体制を確保できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新たな取り組みとして実施される地域密着型サービスネットワーク会議へ参加し、事業所間の交流の機会がもてるよう努める。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントを通じて、利用者及び家族の要望など確認すると共に、利用者の不安行動に対して、寄り添うことができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談、入居後においても定期的に連絡をとり、面会等可能な限りご家族の協力をお願いする。また、本人との関わりを可能な限り持っていただけるよう話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族通信等定期的な連絡及び状態の変化があった場合など常に連絡をとり、援助計画の変更を含め対応･援助している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にして頂ける日常生活の動作は、本人の思いを確認しながら、共に暮らす者として役割を持ち、生活意欲の維持･向上に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期の連絡及び年2回実施する環境整備を含めた家族交流会を通じて、本人との関わり(絆)を可能な限り持っていただけるよう援助している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後においても、入居前の知人等の面会、本人又はご家族の希望を確認した上で、外出ができるようにしている。	職員と利用者マンツーマンの個別支援で、生まれ育った土地を訪ねたり、墓参りに行く等、これまでの馴染みの関係が途切れぬ様支援している。利用者同士仲良しが出来て、ホームに来て生まれた新しい馴染みの関係も芽生えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や日々の生活上の役割活動を通じて、利用者間でコミュニケーションが取れるようにしている。必要により仲立ちを行い、円満な関係が維持できるように配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の所対象者又は希望者はいないが、必要により対応できるように努める。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、利用者のちょっとした仕草や表情の変化を見逃さないように努め、確認した場合は、個別的に援助できるよう努めている。	家族に本人の気持ちや状態を伝えて、ホームがパイプ役となり、本人と家族の調整を図っている。本人の希望で職員が付いて一泊旅行する等、本人の思い最優先で可能な限り気持ちに添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの利用者の生活暦を自分史として記録すると共に、ご本人の事業所での生活状況についても日常生活の中で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の始まりに健康チェックを実施すると共に、ご本人の訴えや日々の状態の変化に気づくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画（お世話プラン）原案をスタッフ間で共有できるように、個別記録の中に援助ポイントとしてファイルしている。	本人・家族から管理者（計画作成担当者）がよく話を聞いて、情報を職員に伝えてプランを作成し、様子を見ながら検証し、現状に即してプランを変更している。プランが日々の支援に反映出来る独自の様式を工夫していた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノート、全体の介護日誌、つぶやきノート等スタッフが感じたことを記録として記入し、スタッフ間で共有するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者又はご家族の希望等確認し、事業所で対応可能なこと、ご家族に協力して頂くこと、外部サービスや法人内で対応できることなど、その時の状況に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別援助等外部のサービスを活用する等、ご本人のニーズに対して可能な限り対応できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による定期的な医療相談の実施。主治医の指示又はご家族の希望により状態に応じて他科受診を実施する等柔軟な対応を行なっている。	受診介助は可能な限りホームで対応している。母体法人全体で受診介助等医療面専門の看護部門を設け、２４時間何時でも連絡可能な全面的サポート体制を整え、対応して貰えるので安心だ。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	、医療連携による看護師の派遣及び法人看護師との連携を密にし、心身の状態等随時相談又は助言が得られる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人全体としてで契約している医療機関への連携を密にし、入院等必要性に応じて対応が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りの指針に沿って、主治医、ご家族、事業所の三者で、協議する機会を設けることが出来るよう、受診時において可能な限りご家族の方にも来て頂けるよう随時相談している。	本人･家族の強い要望があり、医療的な問題もなく、家族や医師の協力も得られるならば、職員共よく相談して、出来る限りの支援をしたいと考えている。ターミナル指針を作成し、重度化や終末期に向けた方針の共有を図り、支援する態勢が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	少なくとも年に1回は緊急対応手順が習得できるよう、法人委員会、消防署と連携して救急法の講習を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団との連携を密にすると共に、年一回は合同での避難訓練の実施が出来るように連絡･調整している。	利用者も全員参加し、昼間を想定した避難訓練を実施した。管理者が地区消防団に所属し活動しているので、災害時の地域との連携も取れている。スプリンクラーも今年度中に設置予定である。	今後は夜間を想定した避難訓練をしたいと聞いた。とても重要な事なので、是非実施して欲しい。運営推進会議で災害対策を議題にして、皆で相談してみても良さそうだ。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内にコミュニケーションチェック表を掲示しすると共に、援助者の言葉かけに対し随時確認するよう努めている。	手押し車に人形を乗せて歩く人に職員が「ゆきちゃんよね」と声をかけると満足そうな笑みになった。「利用者は我々の大先輩である。皆さんが居たから今の私達があるの、気持ちで接していこう」管理者は何時も職員に伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の意向確認するよう努めると共に、意思表示することが難しい利用者の方に対しては、表情や仕草等変化に気づき、ご本人の希望を確認できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者の状態等に応じて、柔軟に対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中、行事や個別外出等、個人の意思を尊重する。必要により季節にあった服装が出来るように声かけ援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに出来ることを確認し、炊事、洗濯など役割分担を行なうと共に、当日体調により共に生活するものとして協力できるように声かけ援助している。	一口食べて「美味しい」の第一声に「嬉しい」職員が喜ぶ。「ちょとごめんよ」皆と同じように配膳した食事を、その人に応じて目の前で食べ易く切る。介助の必要な人には職員が付いて皆で談笑しながら食べていた、。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	誤嚥等事故防止に努めるとともに、主治医又は法人管理栄養士の指示又は助言を得ながら、個々の利用者に応じた食事や水分摂取が出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の能力に応じて、声かけ又は一部介助、状態により全介助を行い、口腔ケアは毎食後実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、定期的な声かけ又は誘導を行い、心地よい排泄が出来るように努めている。	各自の排泄パターンを把握し、タイミングを見て声をかけ、トイレ誘導出来ていた。尿･便意のなくなった人も適切な支援で失禁が減少する等改善した。昼間はオムツをせずにトイレでの排泄を基本に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムを把握し、定期的な運動時間の確保、主治医と相談の上での内服調整を実施している。、		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の実施を基本として、各利用者の体調や入浴前の相談等個別的に希望の確認を行うよう心がけている。	午前と午後に分けて、体調さえ良ければ毎日入浴支援しているが、行事や余暇活動等に合わせ臨機応変に対応している。入浴拒否の場合は無理強いせず、タイミングをずらせ人を代え、日を替えて誘い、3日に1度は入浴して貰う様支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転等著しく生活リズムが乱れないように配慮した上で、個々の生活リズムを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の力量に応じて、内服援助すると共に、副作用等状態の変化があった場合は、管理者及び法人看護師との連携を密にし、迅速な対応･援助が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者の余暇の過ごし方や生活上の役割りや楽しみが持て、笑顔が多く見られるように声かけ援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時期･天候等に十分配慮しながら定期的な屋外のウォーキングや全体行事、ドライブの機会を設けることが出来るように努めている。	日常的な散歩や買い物以外に、花見や紅葉狩り等、季節の行楽にも出掛けている。近くにある同一母体法人のホームとの交流も活発に行っている。カラオケ･ドライブ等、フットワークの良い個別支援も出来ている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の利用者の力量に応じて、個別外出時や行事の際、金銭の取り扱いが出来るよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ定期的又は随時の連絡により可能な限り面会等の時間を確保すると共に、利用者の希望により、電話連絡等できるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ウォーキング等で見つけた季節の花を飾るなどしている。また、トイレ等の表示をわかりやすくすると共に、不安動作を確認した場合は、寄り添い、不安の解消が出来るように努めている。	食卓以外に掘り炬燵のある一段高い畳の間やテーブル囲んで長ソファ、廊下所々のイス等、あちこちに居場所がある。手作りカレンダーや利用者の写真を飾り、全体的に親しみ易い雰囲気が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが不安無く過ごせるように居間等スペースを十分確保すると共に、利用者間の関わりの中で、不快な思いをすることが無いように職員が仲立ちする等配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居相談時に、可能な限り馴染みのある物を持って来て頂く様お願いすると共に、ご本人が安心して利用できるよう配慮している。	窓からの眺めもよく明るい感じの部屋で、その人の生活スタイルに合わせて畳とフローリングを選べる。タンス・ドレッサー・テレビ等を持ち込む人やフランス人形・縫いぐるみを飾る人も居て、その人らしい居室になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別計画を中心として、援助者による援助ポイントを共有し、可能な限り自立に向けた支援ができるように勤めている。		